



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

UAE : アラブの春とソーシャル・メディアの関係に関する報告書 (7日付ナショナル紙)

7日付英字紙ナショナル紙は、ドバイ行政大学院が、アラブの春と呼ばれる一連の中東情勢とフェイスブックやツイッターなどのソーシャル・メディアの関係に関する意識調査の報告書を発表したことを報じている。概要は以下の通り。

1. ドバイ行政大学院が発表した「アラブ・ソーシャル・メディア報告書」によると、今年3月に調査を行った200人あまりのエジプト人とチュニジア人のうち9割近くが、抗議活動を組織したり、広めたりするのにフェイスブックを用いたと回答した。
2. 今年1月から4月までのアラブ諸国全体でのフェイスブックの利用者数は、前年の同時期が18%増加したのに対して、30%増加し、2770万人となった。上記期間中で、エジプトでは29%増（前年時12%）、チュニジアでは17%増（前年時10%）、およびバハレーンでは15%増（前年時6%）となった一方で、リビアでは例外的に76%減少したが、これは多くの人々が戦災を逃れたことが原因だったとみられる。
3. エジプトやチュニジアでのデモの際にどこから情報を得ていたかという問いに対して、ソーシャル・メディアからと応えたエジプト人は88%、チュニジア人は94%にのぼり、非政府系の地元メディア（エジプト人63%、チュニジア人86%）や外国メディア（エジプト人57%、チュニジア人48%）を上回った。
4. 調査対象のうち、エジプト人では28%、チュニジア人では29%の人たちがフェイスブックを止められて、デモを組織したり連絡を取り合ったりするのに支障が出たと回答したが、半数以上は（エジプト人では56%、チュニジア人では59%）、逆に運動を活発化させるモチベーションとなり、新たな参加者を動員したと回答した。
5. 湾岸諸国のソーシャル・メディアの利用者に関し、アクティブなツイッターのユーザーは、UAEでは20万1千人、カタールは13万3千人、サウジアラビアが11万5千人、クウェイトが11万3千人となっており、人口比率ではカタールが8.5%、バハレーンが7.5%、UAEが4.2%、クウェイトが3.6%となっている。
6. アラビア語が使用できないツイッターよりも、使用できるフェイスブックの方が中東地域では広まっている。特にUAEは、中東地域でもその利用者数と利用者増加数が最も多く、今年はじめの3カ月間で29万人（人口比率で6%）が新たにフェイスブックに加入し、のべ240万人が使用している。この他、カタールでは28%、バハレーンでは25%、クウェイトでは23%がフェイスブックを利用している。